

てがみでこんにちは

小学校低学年
子どもに、親に、伝えたい——

— — — — —

芸術生活社

ねんせい
1年生のみんなへ

- もっていくもの、自分で用いしていますか ……8
- おこされておきる。自分でおきる。どっちかな ……10
- 食べる時のやくそくをまもりましょう ……12
- 先生の目を見て話を聞きましょう ……14
- 何かお手つだいすることないですか ……16
- うつくしいものをたくさんかんじましょう ……18
- すきなものばかり食べるとどうなるのかな ……20
- くつにありがとうと言うといいね ……22
- ものをなくさないようにしよう ……24
- きめられたことをまもろう ……26
- 自分ですべきことは自分でしよう ……28—
- クラスにきれいな子がいる時 ……30
- 人をたたかないでね ……32
- よばれたら、すぐへんじをしましょう ……34
- 手をはっきり上げて道をわたしましょう ……36
- 教室に一番早く入る ……38
- お母さん、まってね ……40
- クラスのみんなどなかよくしていますか ……42

もくじ

ねんせい
2年生のみんなへ

クツをぬいたらそろえましょう ……46

いえ じぶん
家で自分のかかりというものをもっていますか ……48

ひと
人のものをかっ手につかっ手にはいけません ……50

つくえ うえ
つくえの上をきれいにしましょう ……52

たの
楽しいお手つだい ……54

きれいな食べものを食べてみようよ ……56

かみさまはどこにいるのかな ……58

いつも手はきれいに ……60

て め み はなし き
あい手の目を見て話を聞こう ……62

「ごはんですよ」とよばれた時 ……64

じぶん
自分のみを自分でまもる ……66

やく だ かね
やく立つお金 ……68 — — — —

「いただきます」「ごちそうさま」と言っていますか ……70

ひとり
一人でできた ……72

あいさつはだれのため? ……74

きょう なん
べん強は何のためにするの? ……76

た あと
食べた後のかたづけをしていますか ……78

しょうじき ひと
正直な人ってすてきですよ ……80

はじめてのおこづかい ……82

よいことをつづける大切さ ……84

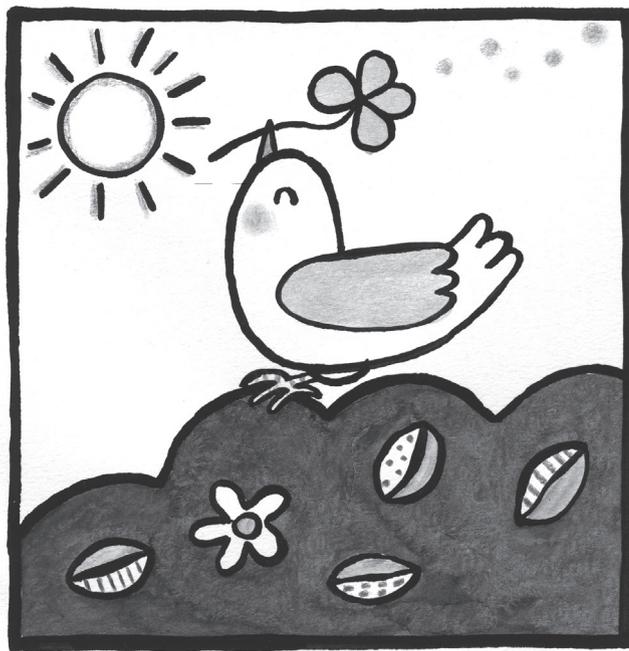
クラスのみんなどなかよくしましょう ……86

ねんせい
3年生のみんなへ

- あいさつは大きな声ではっきりと ……90
い
言われる前にしよう ……92
おお
大きな声で「ハイ」とへんじ ……94
クラスのみんが今日しあわせであるようにいのってね ……96
きょう たの
べん強が楽しくなる方ほう ……98
りょう 理を作ってくれた人にかんしゃしよう ……100
しんごうが 青でも左右をたしかめてわたりましょう ……102
ひと
人のために何ができるかな ……104
ものを大切につかうとそのものもよろこぶね ……106
わるかったと思ったら「ごめんね」 ……108
かあ
お母さんのお手つだいをする時 ……110
た
きれいな食べものがきゅう食に出た時 ……112
かみさまはあなたをまもってくださいます ……114
クラスに休んでいる子がいたら ……116
きょうしつ
教室をいつもきれいにしましょう ……118
せっきょくひょうげん ……120
なに
何かつけていることがありますか？ ……122
こと
言ばだけじゃなくて気もちまで聞こう ……124
うそをつくのほなぜいけないの ……126
ひと
人のためにはたらくって楽しいよね ……128
「ありがとう」って言いましょう ……130
あとがき ……132



1年生のみんなへ



もっていくもの、 自分で用いしていますが

げんかんでぬいだくつは、むきをそろえましょう。そのくつは、元のところへおきましょう。ランドセル、おもかったですか。

おもいものはすぐにおろしたいね。でも、自分のつくえまでもっていこう。がんばれ、おもいけどもうすぐです。

自分のつくえについたら、ランドセルは、自分がきめたところにおきましょう。

先生からおうちの人におたよりはありますか。大じなおたよりは、すぐに読んでもらいましょう。

きゅう食セット、お家の人にわたしましょう。そして、よごれたハンカチをあらってもらいましょう。

しゅくだいをする時には、えんぴつのしんはおれていないか、けしゴムがわれていないか、しらべましょう。

これで明日の用いもできました。

これであなはりっぱな1年生です。



こがこん

子どもの自立心を育てる

今回は学校に持っていく自分の持ち物についてです。小学校の1年生では毎日教科が変わり、違う教科書を持っていくということはまずありません。国語・算数はほぼ毎日ですからね。それよりも大切なことは身の回りの小物について親が心を配る、ということです。

たとえば鉛筆が折れているのをそのままにしておいたり、ノートの残りページがないことに気が付かなかったり、給食用のナプキンやコップを洗わずに持っていかせたり、ということがないようにしたいものです。これらは、親として子どもに接

する基本でもありますから、家の人々が心を行き届かせてカバーしてあげたいですね。

その上で、子どもの「整理整頓」能力を開発してあげるといいですね。

1年生での忘れ物は身の回りの小物が圧倒的に多いのです。身の回りの小物についてはご家庭のしつけの範囲と考えましょう。

家庭生活の流れの中で、子どもが自分で用意したくなるリズムと環境を作ってみると、忘れ物が自然と減ってくるはずですよ。その喜びを親子で体験してみませんか。

おこされておきる。自分^{じぶん}でおきる。 どっちかな

朝^{あさ}は気^きもちよくおきていますか？ 目^めざまし時^{どけい}計^なが鳴^なっても、家^かぞくの人^{ひと}がおこしに来^きてもすぐおきない子^こ。みんなの中^{なか}にもひょっとしたらいるかな？

朝^{あさ}おき^てがにが手^こな子^{あさ}は、朝^{あさ}のしたくもぐずぐずして、ちこくしそうだから朝^{あさ}ごはん食^たべるのやめたってことになるよね。

朝^{あさ}、し^っかり^かごはんを食^たべて学^い校^いへ行^いくと、頭^{あたま}がよ^くはたらくんだよ。元^{げん}気^きい^っぱい^{ぱい}に体^{からだ}も^うご^かせるんだ。

目^めざまし時^{どけい}計^なより、家^かぞくの人^{ひと}の声^{こえ}より、自^じ分^{ぶん}でお^きられる方^{ほう}がいいよね。

それからね、夜^{よる}ね^る時^{とき}に、かみさまにおねが^いしておくと、朝^{あさ}パツとお^きられるよ。きみもや^って^みて^ごらん。気^きもちいいよ。